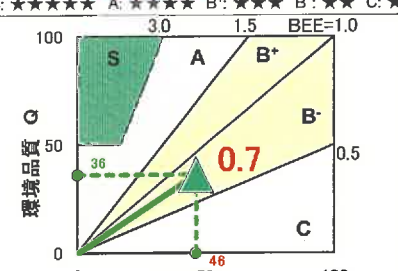
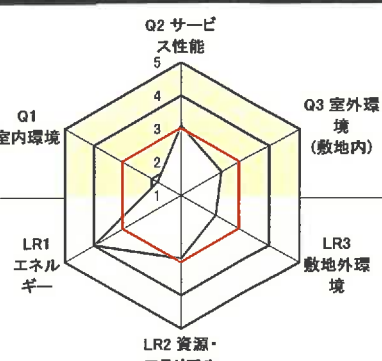
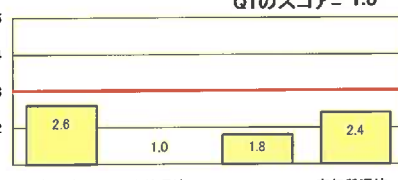
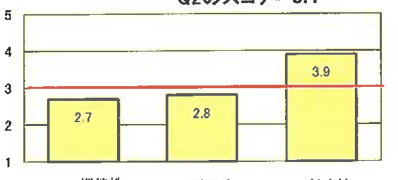
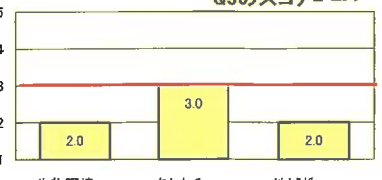
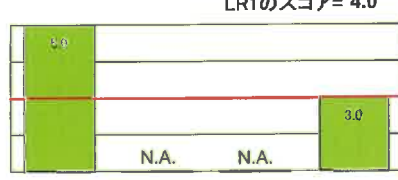


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)ユーシー産業株式会社倉庫新築工事	階数		
建設地	鳥取県鳥取市青谷町青谷4098-1他2筆	地上1F		
用途地域	都市計画区域内、非線引き都市計画区域	構造		
地域区分	6地域	平均居住人員		
建物用途	工場	年間使用時間		
竣工年	2023年2月 予定	評価の段階		
敷地面積	12,347 m ²	評価の実施日	2022年7月20日	
建築面積	2,225 m ²	作成者	藪田浩明	
延床面積	2,225 m ²	確認日	2022年7月20日	
		確認者	藪田浩明	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.7 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★  環境効率 BEE = 環境負荷 L / 環境品質 Q	標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 1.8  Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1  Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.4 	LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.0  LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9  LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.2 	

3 設計上の配慮事項		
総合 受注増に対応するため、隣接工場東側敷地に倉庫を新築する。 既存のグラウンドを計画地とし、周辺環境への景観的な影響を最小限とした。		
Q1 室内環境 鉄骨造による長大な梁を利用した大空間を確保した。 また、床は塗床仕上げとして、倉庫として耐久性のある計画とした。	Q2 サービス性能 維持管理が容易となるような仕上げ材を用いる計画とした。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内の既存植生を可能な限り残す計画として、良好な屋外環境となるよう配慮した。
LR1 エネルギー 常温倉庫として計画し、環境への負荷を抑制する計画とした。	LR2 資源・マテリアル 仕上げと構造躯体が容易に分別出来る計画とした。	LR3 敷地外環境 境界線から十分にセットバックした位置に建てることにより、周辺への反射等の影響を抑えるよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される